

大久保街亜(2014). 再現可能性問題に対する諸関係領域の動向
岡田謙介(2014). 仮説検定における再現性の問題と新たな方法論
日本社会心理学会春の方法論セミナー
「あなたの実験結果、再現できますか? :
False-positive psychology の最前線」, 上智大学.

大久保 街亜

日本社会心理学会方法論セミナーは、日本社会心理学会新規事業委員会の企画として今年からはじまったものである。研究内容だけでなく、方法論についても研究者は知識を更新していく必要がある。このような必要性をみたすため、社会心理学会ではこのセミナーを新規事業として立ち上げた。本セミナーでは最新の方法論の紹介に焦点をあて、企画が立てられるそうである。その記念すべき第1回の企画に、日本社会心理学会の会員ではないわれわれ2名に声がかかったのはたいへん名誉なことであった。

われわれがこの企画への登壇を依頼された経緯は、本研究プロジェクトの成果である「大久保街亜・岡田謙介(2012). 伝えるための心理統計：効果量・信頼区間・検定力 勁草書房」が新規事業委員会の目にとまったからである。この委員会のメンバーであり、セミナーの企画者である北海道大学 竹澤正哲先生と広島大学 清水裕士先生からは、追試の失敗など再現性の低さが問題になっている社会心理学の現状を鑑み、我々の書籍に示したような立場から、再現性を確保するような方法論を紹介できないだろうかという依頼を受けた。本プロジェクトの成果が広く認められることは喜ばしいことであるので、われわれは喜んでこの依頼を受けることとした。

セミナーにおいて、大久保は主に検定力に焦点を当て、例数設計の重要性について話した。そのなかで論文誌「社会心理学研究」をデータに用い、日本の社会心理学研究において検定力が軽視されている現状を実証的に示した。そして、その問題点を解決し、再現性を高める手段をいくつか紹介した。岡田は仮説検定の問題点と再現性の観点に焦点をあて、標準的に用いられている帰無仮説検定の手続きが再現性を低めていることを指摘した。そして、帰無仮説検定にこだわらず、データにあてはめるモデルそのものに関心をはらうべきであることを主張し、統計モデリングの立場からデータを分析することで再現性の問題を解決できる可能性があることを示した。

セミナーでは、講演の後、活発な質疑応答と討論が行われた。このセミナーはインターネットを通じてライブ中継されたため、セミナー会場だけでなく、twitterなどのSNS上においても積極的な発言がなされた。セミナー当日の動画は現在インターネット上で視聴できるので、当日の空気を感じてもらえることできるだろう。

【参考URL】

大久保街亜（2014）再現可能性問題に対する諸関係領域の動向

<http://www.youtube.com/watch?v=pMHwdTyO73w>

岡田謙介（2014）仮説検定における再現性の問題と新たな方法論

http://www.youtube.com/watch?v=zXPkrp_qRIE